

## 分離腎保存液

## ユーロコリンズ液「KCC」

## 腎保存用電解質液

## Euro-Collins Solution “KCC”

本剤は生体腎及び死体腎の洗浄液ならびに浸漬保存液としてのみ用いること。

本剤は医薬品ではないので静脈内はもちろん、皮下・筋肉内注射を絶対に行わないこと。

移植用腎の洗浄保存液としてこれまで種々の晶質液が開発され使用されているが、一般的には細胞内液組成の高張電解質液<sup>1)2)3)</sup>、特にコリンズ液が好んで用いられている。しかしコリンズ液中のMg<sup>++</sup>イオンは必ずしも必須ではなく<sup>4)5)</sup>沈殿物質を生じる原因物質となる<sup>6)</sup>ことからむしろこれを除去した方が良いとする説<sup>7)</sup>が出され、ユーロコリンズ液が開発された。また、その有用性は基礎<sup>8)</sup>、臨床面<sup>9)</sup>からもうらづけられている。

ユーロコリンズ液「KCC」はMg<sup>++</sup>を含まない電解質組成をもとにつくられた移植腎用の洗浄、保存液である。

## 【組成・性状】

## 1. ユーロコリンズ液「KCC」

本剤は使用前の液量465mLに日本薬局方 ブドウ糖注射液（50w/v%）35mLを加え全容量500mLに調製すること。

本剤は最終調製液100mL中に下記の組成となるよう各種電解質を添加した無色の水溶液ではない。

リン酸水素二カリウム	740mg
リン酸二水素カリウム	205mg
塩化カリウム	112mg
炭酸水素ナトリウム	84mg
(ブドウ糖)	3.5g

## 2. コリンズM液処方として使用する場合

本剤は使用前に日本薬局方 ブドウ糖注射液（50w/v%）25mL及び日本薬局方硫酸マグネシウム注射液（0.5モル）3mLを加え、その後使用する。

調製液1，2の電解質組成は表のとおりである。

表 ユーロコリンズ液「KCC」とコリンズM液調製液の電解質組成

	電 解 質 mEq/L								
	Na <sup>+</sup>	K <sup>+</sup>	Mg <sup>++</sup>	Cl <sup>-</sup>	HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup>	HPO <sub>4</sub> <sup>-</sup>	H <sub>2</sub> PO <sub>4</sub> <sup>-</sup>	SO <sub>4</sub> <sup>-</sup>	Glucose
1. ユーロコリンズ液「KCC」	10	115		15	10	85	15		(194)
2. コリンズM液	10	115	6	15	10	85	15	6	(144)

(浸透圧及びpH)

## ユーロコリンズ液「KCC」

浸透圧比：約1.25(生理食塩液に対する比)

pH：7.2～7.5

## コリンズM液

浸透圧比：約1.10(生理食塩液に対する比)

pH：7.0～7.3

## 【用 途】

生体腎あるいは死体腎の洗浄液ならびに浸漬保存液として用いる。

## 【使用方法】

本剤は使用前の液量465mLに日本薬局方 ブドウ糖注射液（50w/v%）35mLを加え十分混合後、全容量を500mLとした後使用する。必要に応じて下記の薬剤（※）を適宜添加すること。

- 使用前に本剤を0～4℃まで十分冷却させる。
- 生体腎移植の場合はあらかじめ滅菌した容器に冷却した本剤を入れ、腎摘出後は直ちに移植用腎をこの中に浸し、腎を冷却すると同時に腎動脈にカテーテルを挿入する。次いでこのカテーテルを介してあらかじめ冷却した本剤を灌流し、腎内部の血液を洗い出す。灌流速度は少なくとも30mL/min以上となるよう調整し、静脈側の流出液に血液のにごりがなくなるまで行う（300～500mL）。
- 死体腎移植の場合は下大静脈を切断し、先に大腿動脈から挿入したカテーテルを介してあらかじめ冷却した本剤を灌流しながら腎を摘出する。
- 洗浄後は腎に浸漬していた液を捨て、直ちにあらかじめ冷却した本剤に再び浸漬し、無菌性を保つようおおいをかけそのまま低温で保存する。
- 移植直前に保存腎を約500mLの2～4℃に冷却したハルトマン液で洗浄し、腎内部の本剤を除く。

## （※）添加薬剤

プロカイン、ヘパリン、ウロキナーゼ、ハイドロコチゾン、抗生物質

### 【取扱い上の注意】

1. 貯 法：室温保存。
2. 使用期限：瓶ラベル・外箱に表示の使用期限内に使用すること。
3. 注 意：
  - (1) 本剤は医薬品ではない。細胞内液電解質組成に近似しているが、カリウム濃度が高いため静脈内及び筋肉内注射は絶対に行わないこと。
  - (2) 腎を移植する際、移植前にハルトマン液等の適当な薬剤で分離腎内に残留する本剤を洗浄、除去しなければならない。
  - (3) 本剤中に沈殿物や異物が認められる場合には本剤の使用をとりやめること。

### 【包 装】

ユーロコリンズ液「KCC」 465mL×1瓶

### 【主要文献】

- 1) Collins, G. M.: Lancet, 2, 1219, 1969.
- 2) Collins, G. M. et al.: Lancet, 1, 220, 1975.
- 3) Sacks, S. A. et al.: Lancet, 1, 1024, 1973.
- 4) Green, C. J. et al.: World J. Surg., 3, 115, 1979.
- 5) Sacks, S. A. et al.: Transplant. Proc., 10, 287, 1978.
- 6) Netto, I. C. V. et al.: Urology, 2, 389, 1973.
- 7) Welch, L. T. et al.: Lancet, 2, 1444, 1973.
- 8) Dreikorn, K. et al.: Eur. Urol., 6, 221, 1980.
- 9) Squifflet, J. P. et al.: Transplant. Proc., 13, 693, 1981.

### 【文献請求先】

ネオクリティケア製薬株式会社 学術情報フリーダイヤル  
〒112-0006 東京都文京区小日向4-2-8  
TEL 0120-265-321  
FAX 03-5840-5145

製造発売元（輸入）

**ネオクリティケア製薬株式会社**  
神奈川県厚木市旭町四丁目18番29号